



外国人相談から見えてきた多文化共生 ～「いま」必要なことを見定め、連帯で挑んでいく～

特定非営利活動法人国際活動市民中心 CINGA (シンガ) サブコーディネーター 川上 智子

専門家と外国人の橋渡し

国際活動市民中心（通称 CINGA）は、2004 年に外国人特有の問題に向き合い多文化共生を目指す市民団体として発足しました。弁護士や行政書士、医師、社会保険労務士、日本語教師、通訳翻訳家、メディア記者など其々の立場から外国人を取り巻く実情をよりよくしていくと結集した専門家ネットワークと、外国人当事者や支援に携わる人を「コーディネート」を通じてつないでいくことが CINGA の特徴です。



「まあ〜るい地球をつくります」 CINGA ウェブサイト TOP

外国人相談と地域はつながっている

CINGA 設立当初からの事業に「外国人相談事業」があります。それに加えて、東京入国管理局主管「外国人総合相談支援センター」（2012 年～）、技能実習機構母国語相談事業（2018 年～）を受託し、当事者や当事者から相談を受けた行政や国際交流協会などの支援者からの声を受け止めています。2022 年夏からはウクライナ避難民の声をウクライナ語で傾聴する「ウクライナ語の心のよりそい電話」事業も始めました。相談は、複数の問題が絡み合っていたり、解決の手段が見つからなかったりするものです。やさしい日本語や多言語対応のできる相談員がその対応に当たります。ひとりの相談員では対応できないケースについても、組織内外のネットワークを活用し、解決の手助けをしていきます。



ベトナムフェスティバルでの専門家相談のようす（2022 年）

地域におけるセーフティーネット

CINGA のもう一つの柱は「地域日本語教育」です。多様な背景を持つ人々が集う日本語教室は、同じ地域に住む人々が出会い、交流する国際理解・相互理解の場です。参加者が「教える」「教えられる」という関係ではなく、お互いへの理解を深めて学びあう対話活動が日本語学習となります。そして、そこでは参加するすべての人にとって「居場所」になります。何か生活の中で困ったとき、誰に相談するでしょうか。家族やエスニックコミュニティ、保育園、職場などに加え、外国人にとって日本語教室はかけがえのないセーフティーネットです。日本語教室で浮かび上がった問題を、CINGA が地域の窓口や専門家につなぎ、解決へ導いた事例もあります。



5人の登場人物から学ぶ「わたしをつたえるにほんご」

NPO だからこそその推進力

CINGAの強みは、社会状況やその背後にある問題を敏感に捉え、それを素早く実行する、推進力に尽きると思っています。例えば、2018年12月、外国人労働者の受け入れを拡大する入管法改正が決定され、全国100か所に急速に開設が進んだ「多文化共生総合相談ワンストップセンター」を、翌年2019年に20日間にわたってキャラバンで訪問しました。訪問時に現場の課題を聞き取り、職員などとの対話を通して関係性づくりに努め、関連自治体などへも周知に努めました。また、2020年2月からの新型コロナウイルス感染症拡大を受け、約2週間で東京都とともに立ち上げた東京都外国人新型コロナ生活相談センター（TOCOS）では、情報格差の大きい日本語を母語としない方などから健康不安や体調不良に関する症状を聞き取り、傾聴やアドバイス、急を要する場合には保健所や病院とも通訳でつなぎました。市民活動をベースとしてきたからこそ、「いま、社会にはこれが必要である」ということにアンテナを張り、計画や実行にスピードをもって取り組みます。



「いのちを守る」ための情報として動画ツールや緊急貸付金申請書の多言語翻訳などを無料公開（2020年）

自治体や組織の連携から生まれる

瞬発力のある動きを作り出せるのも、長年にわたり築いてきた地域活動団体や専門家のネットワークや個人と個人のご縁の蓄積があるためです。CINGAの事業は数々の連携によって生まれてきました。例えば、PCR検査の受け方など、医療機関にかかる際に必要な知識を解説するシリーズ動画「医療で用いる『やさしい日本語』」は、医学と日本語の専門家と共に作成し、動画サイトに投稿しました《専門家との連携》。政府からの給付金を受け損ねてしまうリスクのある対象者に、相談センター

を設置し、外国人当事者と地域で関わる可能性のある子ども食堂関係者への周知を強化しました《NPOとの連携》。東京都北区では、当時3回目のワクチン接種が開始される中で、言葉の壁により2回目の接種も受けられていない外国人への門戸を開くため、予診票を6か国語で作成し、接種会場での通訳の協力をしました《自治体との連携》。



多言語対応したワクチン接種強化週間@東京都北区(2021年)

常に新たな挑戦を

CINGAは、日本における外国人問題・課題を広い視野で展望しつつ、市民活動を通じて、「いま」見えることを実践活動の中で捉え、全国どこでも志を共にする人的ネットワークを駆使しながら、新しい多文化共生の社会を目指します。様々な「参加」「協働」「創造」のプロセスを展開する中で、新しいプロジェクトを常に考えていきます。このほかにも、公的な機関へ通訳者を派遣する少数言語通訳コーディネーター事業や講演・研修事業なども行っています。外国人ならではの問題が突如目の前に現れたとき、長年の取り組みの中で気になっていたことを他の誰かに意見を聞いてみたいとき、ぜひCINGAにご連絡ください。ご相談だけでなく、ともに時代に合った社会構築のために協働できることを楽しみにしています。



人と人のつながりから新たなプロジェクトが生まれていく